大正十三年十一月二十二日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）
大正十四年八月十日印刷納本 大正十四年八月二十日發行

婦人と勞働

八月號



職業婦人社發行

(廣告)（御註文又は御照會の節は「主婦之友」の廣告を見たと御申添になれば便宜が得られます）（卷頭の1）

第三卷第七號　十四年八月號

婦人と勞働

婦人と勞働

協力へ！組織へ

私たちの婦人運動は、經濟問題に核心を置いて進んで行かねばなりません。職業婦人の運動を中心として、それをとり卷く家庭婦人の運動が起らなければならないのだと思ひます。

この秋より、我が職業婦人社は、職業婦人の問題を中心にして、廣く、一般婦人問題に就いて積極的に動き出してゆかうといふことになりました。創刊以來三週年、今日やうやくこれだけの基礎が出來たことに就いて、短いやうで案外に長かつた三年間を、隱忍して地固めに努めて來たことを誇つていゝと思ひます。

今度關西に支部を置くことにしたのも、私たちの運動を一層力強く、より計畫的に進めてゆきたいからであります。『婦人と勞働』を通じて内から外から、有力な支持者として應援してゐて下さる人々に、更にこの上のお力添へを下さいますやうにとお願ひを重ねる次第であります。

婦人運動者の種々相

布施辰治

一

單に婦人運動のみに限つた事ではないが、總ての運動を通じて、私の嫌たらない事は、ほんとうに時勢を作る丈けの考へを以て、又、それ丈けの自任を以て、其の運動に從事してるものゝ尠ない事である。八ヶ間敷云へば、時勢と運動者との關係は、因々果々のタマキを環るものであつて、運動者が時勢を作るとも言へない、時勢が運動者を作るとも言へないと云ふ論もあるのだから、一概に時勢を作る丈けの考へを以てとか、或は自任を以てと云ふ社會運動者なり婦人運動者なりを求むる事は、間違つて居るかも知れないが、少くも私としては、運動其の事が現代の時勢に適して居るか、適して居らないかと云ふ事を見て取る者があつても、眞に運動其のものゝ眞理を把持して居る人の少ないらしい事を痛感せしめられる。若くは、其のやうな眞理の把持があつても、其の眞理を時勢の如何に拘らず、廣く人類に宣傳する事を使命なりと考へる人の容易に見當らない事を淋しく思ふ。私の信ずる處によれば、眞の運動者は、社會運動婦人運動の目的其のものを絶對の眞理なりとするもので無ければ爲らない、と同時に、其の眞理の實現可能を信ずる事、所謂眞理は最後の勝利なる事を信ずるもので無ければ爲らない。そして更らに、左樣した眞理を社會が迎へなければ迎へない丈け、其の社會は眞理に遠ざかつ

て居る社會である事を痛感して、眞理に遠かれる社會を一日も早く、一寸も近く眞理に引寄せる事を以て、眞理に遠かれる社會に苦惱して居る人類の幸福を回復する運動に献身しなければ爲らないと信ずる。例言すれば、或物の腐敗が甚だしければ甚だしい丈け、防腐劑、消毒劑の强烈なる事を要すると同じく、社會が眞理から遠かつて居ると思へば思ふ程、眞理の實現を努力する意氣と信念に燃えるもので無ければ爲らない。此の意味に於て、總ての運動に從事するものには、時勢を作るだけの信念を要する。

二

然るに、現代の所謂社會運動者、婦人運動者に、果してそれだけの信念と自任とを有つて居る人が幾人あるであらうかを疑はなければ爲らない事を悲しく思ふ。試みに、現在の婦人運動者に就て、之を点撿すると、私の今擧げたやうな運動者の多いか少ないかは別として、之れを第一種に數へて置かうか。第二種としては、所謂婦人運動の目的に付て、可成り目覺めた認方はして居るが、大した信念と自任とを有する譯でも無い時の勢ひに乘りつゝある運動者を數へなければ爲らない。而かも、此の第二種の婦人運動者中には幾細別がある。1婦人運動の目的の正しい事は信じて居ても、自ら其の實現を期しやうと云ふのではなく、自分等が危ふくない程度、位地、狀態に於て、之を主張して居れば、誰れかゞ實行して吳れるであらうと考へて居るもの、2は其の目的は必ずしも良いとは思はないが、世間が良いと云ふから良いのであらう位の考へで、時勢に引きずられて居るもの。そして此處にも又、色々な種類があると思ふ。共の一例を云へば、外國智識受け入れの婦人運〇者として、外國では此の樣だから、我國でも

かふせねば爲らないと云ふもの、或は婦人運動に與つて居たら、自分の行き惱んで居る婦人問題をどうにか解決し得るかも知れないと云ふ者等である。が、是等の婦人運動者は、眞の運動者としての信念も自任も有つて居らない点から云へば、憐れなものではあらうが、決して憎むべきものでは無い。所謂善政政治の謳歌者が、善意の善政を欲しながら、結果が惡政に終つても、其の善意だけは認めてやらなければ爲らないと云ふ程度に於ての好運動者である。

三

處が、此の種類に屬するものゝ中で、甚だ憎むべきものがある。夫れは何かと云ふと、所謂婦人運動が盛んに爲つたと云ふので、之を煽つて吳れる点から云へば結構だが、其の實は之を煽り上げる事に依つて、婦人運動が其の目的を達成しようとしまいと、或は、所謂婦人問題が徹底的の解決を得ようと得まいと、若くは其の解決の結果の善からうと惡からうとに拘らず、只單に、婦人運動の盛んに爲つたと云ふ時勢を利用して、自らの腹を肥やそうとする運動者である。斯くの如きものは、正しい意味に於ける運動者とは言へない。けれども、現代の所謂運動者型から云へば、立派な運動者として認められて居るのであるから、私は、特に之を掲げるのであるが、彼等は婦人運動の盛んなるにつれて、婦人問題に關する著述をしたり、講演をしたりして、其著作料や、講演料を取り上げて、終には其の金に依つて、事實上所謂婦人運動の目的とは全然背馳した、婦人の權利を蹂躙して居る不都合な婦人運動者――問題の婦人運動者がある。彼等は問題から問題と、順次時の問題を追ふて走つて居るのであつて、其の問題々々に付て、何等の誠意も、信念も、期待も無く、其の問題を利用するのみであるのは、如何にも

惜むべき問題運動者である。彼等は問題其のものに、誠意も、信念も、期待もないだけに、時に其の著述や講演やは、ほんとうに其問題解決を求める者の運動を妨げる場合がある、其の例は、奇矯過激な論を書いたり、講演したりして、問題其のもの、運動其のものを危険視せしむるやうな場合である。彼等から云へば、世間の好奇心をそゝる事によつて、彼等の目的は遂げ得らるゝであらう、けれども、實際の運動其のものは妨げらるゝ事に爲るのである。

四

第三種には、社會運動と婦人運動とを問はず、一種の避雷運動として、婦人運動の目的、社會運動の目的、其のもの丶正しい事を知つて居りながらも、自分等の立場を危ふからしむる事を恐れて、成るべく婦人運動の×直に邁進する事を避ける爲に、他の方面に導かんとする運動者である。斯くの如き運動者こそは、所謂獅子身中の虫であらねば爲らない。彼の普通選擧運動に此種の運動者を求むれば澤山ある。

第四種は、所謂婦人運動者の一種類として、只騒ぎたいばかりに騒ぐ野次馬の運動者がある彼等は、眞に婦人運動に對して、どれだけの信念を有ち、若くは、どれだけの自任と、どれだけの期待とを有つて居る譯でもなく、只所謂婦人運動に參加して居ると云ふ事を見榮にするか或は、一種の保護色として居る連中である。

私は、最近種々の婦人運動者に接近して、婦人運動者種類別を痛感し、こゝに之を列擧して正しき婦人運動者の決心と警戒とを望むと同時に、問題婦人運動者の反省を望むものである。

英國婦人勞働組合運動史

山川菊榮譯述



本號から引續いて紹介するのはバーバラ・ドレーク女史の著『勞働組合における婦人』である。ドレーク女史は、英國勞働黨婦人部の闘士で、此書物は女史が委員長たりし勞働調査所（勞働黨、勞働組合大會、デーリー・ヘラルド、消費組合及び其他の諸勞働團体が協同して勞働問題の調査のために設置したもの）及びフエビアン協會婦人團体の合同調査委員會の蒐集した材料の報告であつて、第一篇は、英國婦人勞働組合發達史、第二篇は英國婦人組合員の現狀、第三篇は勞働組合の內部に於ける婦人の問題を、記述し批判したもので、十九世紀初頭より世界大戰終了後に至るまでの事實を網羅して居る。以下に紹介するのは、其第一篇である。

第一章　初期の組合運動に現はれた婦人

（第十八世紀より一八七四年まで）

第十八世紀及び第十九世紀の初頭に於て、早くことがある。（よく知られて居るように、十八世紀も『女貧乏人』の間には團結の兆しが現はれてゐた末から十九世紀初頭にかけて、イギリスで始めて一七八八年、レーセスターに於て『姉妹會』として蒸汽の力を利用した機械工業が興つた當時、在來知られてゐた非公式の組合が仲間の男子を煽動しの舊式な道具で糸を紡ぎ、機を織つてゐた職工はて機械の採用に反對する暴動を起させようとした、動力機と競爭が出來ないので、一時に多勢失業

し、貧困と悲慘のどん底に陷つたものである。が、これは機械の罪ではなくて、折角人類社會の幸福を增し進步を助けるために發明せられた機械が、社會全体のものとならずに、個人の私有に歸し、隨つて社會全体の利益となる代りに、個人の金儲けのために許りに利用された結果であつたことを、當年の貧しい職人達は心づかなかつた。そこで彼等は、一意專心、機械を目して自分の仇敵と考へ、單に機械の採用に反對したのみならず進んでは、これが破壞をさへ企てたのであつた。

　その抗議には斯う述べてあつた。『極めて內輪に見積つても、上記の都市及び田舍に於て傭はれて居る貧しい手紡工の數は一万八千五百に及んで居るが、彼等の謙抑なる請願書は、紡ぐ仕事が、そのあらゆる部門に亘つて、測り知られぬ昔から婦人特有の仕事となつてゐたことは、獨身女子が法律上スピンスター（字義通りには『紡ぐ女』を意味し、普通には未婚婦を意味する）といはれるほどである、といふことを示して居る。……故に此古い仕事――市民的自由と密接な關係があり、家庭の和樂に滿ち、宗教生活にとつて極めて有益である所の此仕事が彼等から奪はれるのを見ることは本請願人らの大に憂とする所である。今日、續々建てられる紡績工場は、結局さういふ結果を齎らすに相異ない。貧乏人の仕事は、其等の蒸汽機關によつて行はれ、貧乏人は失業することゝなるであらう。』一八一一年にはラフボローに於て、『團結の精神を示して傭主に迫り、賃銀值上げを要求した』レース編みの女工が、牧師の知事をひどく驚かせた。是等の勇敢な婦人は、單に集會を開く許りでなく、附近の町から同志を糾合し、基金を集めるために密使を派遣したりしたので、知事は大に狼狽し、さういふ行動はすべて法律に違反したものであるといふ警告を發したりした。』

　けれどもかういふのは稀な例外であつて、大体に於て婦人の間に組合運動は發達してゐなかつた

十八世紀及び十九世紀初頭の貴族的な、排外的な同職組合は、婦人の加入を許さなかつた。父親や夫のために無給の助手として働く妻や娘は、父親や夫の組合にはいるだけの資格はなかつた。けれども男子の組合とても、婦人勞働の問題を全然念頭におかなかつた譯ではなかつた。一八一一年には、仕立職の親方の組合が『夫や父親が妻子に最もよく教へることの出來る仕事によつて、彼等、妻子）が一シリングすら稼ぐことを、渡り職人の規則が禁じてゐる』ことについて異議を唱へた。其後、渡り職人の裁縫師の團体は之れに對する辯明を發表し、極度に劣惡な勞働條件の下に働らく婦人や小兒の慘狀には衷心から同情を表するが、さういふ勞働者の競爭によつて、自分達の勞働條件が破壞される苦痛を訴へた。

然し『大工業』の發達と共に發生した工場勞働者の組合は、それほど排他的な政策は採らなかつたマンチエスター紡績工組合及びマンチエスター小工藝品織工組合は　十八世紀に婦人組合員を有したことが知られて居る。一八一八年の紡績工のストライキには、男子も女子も同額の罷業手當金を受けてゐた。けれども婦人は、多分勞働組合の條件を守ることが出來なかつた故であらう、後に組合から除外されてしまつた。少くとも或一人の傭主は、一八三八年、勞働者團結委員會の前に證言を與ふるに當つて、婦人をストライキ破りに使用したことを誇つたのである。婦人は**ストライキ破り**として男子から排斥された。『合衆王國一般大組合』の創立された一八二九年の大會に當つて、紡績工は男工のみを包容することを決定し、婦人及び娘に對して、別に組合を作ることを慫慂した。けれどもグラスゴー紡績工組合は、婦人に對して、請負賃銀率を計算する面倒な仕事や、勞働爭議に際しては助言を與へた。協會の會員は一八三〇年代の初期に男女同等の賃銀率を採用させる運動を起した。けれども傭主側は、婦人の仕事は、量に於

ても質に於ても男子のそれに劣るといふことを主張して、女子に男子と同じ賃銀率を適用することを拒絶した。運動は失敗に終つた。一八二八年の勞働者團結委員會の前に證言を與へた協會の一代表者は、協會員は、婦人が『さういふ過激な勞働に從事することを見ることは喜ばぬ』にもせよ、婦人の雇傭を廢止させることを目的とするものでなく、『廉い賃銀を拂はれる』ことに對して、婦人を保護することを目的としたものであつたことを述べた。

　これに反して綿布織工の組合は、最初から婦人をも包容した。手織機の織工は、動力織機の工場に入ることを好まなかつたので、その代りに妻子が工場に入り、斯くして彼等がもはや手織機では維持することの出來なくなつた家計を、妻子が維持するようになつた。機械に對する場合には、婦人の方が優越な地位を持たぬまでも、少くとも男女の地位が平等であつた。男女の賃銀率は平等であり、男女は互に、相手を組合から除外する理由を見出さなかつた。けれども動力機の織工は。食ふや食はずの賃銀しか貰つてゐなかつた。その賃銀の標準は婦人によつて作られたものか、又は機械の無慈悲な競爭によつて際限なく引き下げられた手織機の織工によつて作られたものであらう。一八一七年に、ストックポートでは動力機の織工の平均賃銀は、一週八十二時間の勞働に對し、八シリングであつた。一八二四年團結禁止法の廢止に至るまで、勞働者は殆んど全然傭主の爲すがまゝになつてゐた。同年、その哀れな賃銀の中から一週六ペンス乃至九ペンスを燈火代として差引れた十一人の男工と十二人の女工とがストライキを起した。『彼等は裁判官の前に引出された。裁判官は、歸つて仕事をするか、監獄へ行くか、考へて見るように』と裏庭へ入れておいた。が彼等は『値下げられた賃銀で工場へ歸ることを拒絶し、婦人はミッドルウイッチ、男子はチエスターの監獄に

一ヶ月の間禁錮された』のである。

けれども一八三三年から翌年にかけての勞働運動の勃興時代に至るまで、婦人は大体に於て、組合運動に對して顯著な活動をしなかつた。五十万の勞働者を糾合して全英國を脅威した大英國及びアイルランド勞働組合全國同盟も、亦店員、煙突掃除人、剪毛職人、農夫などの諸組合と同じく、『婦人組合』をも包含した。『大ブリテン及びアイルランド婦人組合本部』は『帽子製造工本部』と勢ひを競ふた。『エンシエント・ヴアージンス』といふ婦人組合は、オールダムの暴動に於て名を著はし、男子と共に十時間運動に參加した。『女園丁』も亦これと共に名聲を擧げた。婦人は又自分自身の方針を持たぬ譯ではなく、『女裁縫師組合』は、『男裁縫師組合』が、實際、婦人がチョキを作ることを禁ずるつもりかどうかと憤慨して詰問した。帽子工組合は、『一八一五年の戰爭から凱旋した勇士が、麥藁帽子製造業に侵入して婦人勞働者の賃銀を引下げる』ことについて抗議を申し込んだ。

一八三四年の全國勞働評議會の崩壞より後、婦人は沈默してしまつた。新しい機械が採用され、又は仕事の一層細かな部門分けが行はれて、不熟練な、又は体力の弱い勞働者の利用される範圍が擴まる毎に、男子の勞働組合員が『不當なる婦人の競爭』に對して抗議を唱へた場合の外、婦人については、何も聞かれなかつた。一八四五年に陶器工組合は、新しい機械の採用に際して、婦人が始めて雇傭されたことについて抗議を申し込んだそれには『妻や娘や母達よ。機械は諸姉の最惡の敵である。機械の發達によつて迷惑を蒙むる人々中で諸姉はその最も甚しい者となるであらう。それは、諸姉にとつては組織的な謀殺に等しい。それは、家庭と家事とに對する諸姉の自然の權利を破壞し、諸姉及び諸姉の勞働する子供らを、高熱の不潔なる職場に於て損なひ、其處で悲み泣き、勞苦し、衰弱し、死に至らしむるのみである。』と

いつてあつた。『陶器工の苦難』が婦人や小兒にまで及ばされることは明白であつたし、彼等が婦人雇傭の悲慘な結果を恐れたのは十分理由のあることであつた。陶器工は自分らの妻や娘が、家庭から工場へ移され、自分のと同じ壓制者によつて搾取され、自分自身の競爭者となり、自分らの半分の賃銀に甘んずることによつて自分らの職を奪ふことを恐れたのである。

これより一層險しいのは、ロンドン渡職人製本工組合の例であつた。此組合員は、一八三〇年代及び四〇年代に亘つて著名であつた、組合と諸聖書協會との爭議に當つて、自分ら自身の權利と共に、婦人の權利をも擁護したのである。十八世紀以來、婦人は『縫ひ方及び折り方』として傭はれてはゐたものゝ組合には入つてゐなかつた。一八二五年に、爭議は、諸聖書協會が不當なる賃銀の値下げをもつてキリスト教の智識を普及することの攻撃から始まつた。その事件は一旦解決がついたが、一八三四年に至つて再燃し、英國及び外國聖書協會に對して同じ攻撃が繰返された。『多くの婦人(約二百人)は其協會の製本方に傭はれて居るが、其賃銀は全べて、最近に行はれた是等の書籍の價格變更によつて引下げられた。それ以前に於ても、彼等の賃銀は極めて低廉であつた。婦人がその勞働によつて眞面目な生活を營むに足るだけの賃銀を稼ぐことを一層困難ならしめ、時には全然不可能ならしむることは、結局それだけづゝ貞操の破壞者に力を添へることゝなるものである』聖書協會の發表によれば『能力ある精勵な婦人は一週八シリング乃至十シリング以上を稼ぐ一方、『同様』の男子は一時間六ペンス又は一週三十シリングの收入を得てゐた。けれども組合の書記ダンニング氏は、この事實に相違があることを述べて二十四人の婦人の平均週給は五シリング十一ペンスにすぎないことを指摘した。

(以下次號)

内閣は總辭職をした

……それは國民に何の關りもなし……

私たちは女で、……わが日本に於ては、國でも、市町村でも、公民とは男子に限ることにきめられてゐます。政治上の選擧權も被選擧權もないばかりか、政治上の結社に入ることも出來ないのが女の身の上です。政治に關する演説を聞いたり、しやべつたりすることさへ、やつと四年前（大正十一年）に許されたにすぎないではありませんか。

直接婦人參政權要求！の運動に參加しないからと云つて、政治に對して冷淡なぞと批難するのはやめて貰ひませう。一体、政治とは何ぞや、です。

○

内閣が總辭職をした。加藤高明さんが各大臣の辭表をふくさに包んで捧呈に出かける圖といふ寫眞もみました。然し、それが一体何です。田中大將がだるま總裁高橋さんのおん出されたアト釜にすわつたさきから、政友會では、いつ、いかなる口實をとらへて、憲政會との提携を絶たうかといふ事が唯一の苦心であつたのは見えすいてゐました。たま〳〵稅政案といふ好個の口實をみつけたので、いかにも公明正大の理由ありげにして聯立内閣の倒壞が出現したにすぎません。

而もそれにつゞいていろ〳〵に起つてゐるらしい政界の策動のみにくさはどうです。どうせ政權を握らんがための提携だ。時機が來れば、又政權奪ひあひのために離散するのは知れきつてゐることながら、とにかく内閣が倒れる、といふことは、國民にとつて決して輕々しいことではないのです。その輕々しくない重大なことを、ただ、彼ら政治家たちの政權獲得の競爭の道具として手輕くくり返されるのでは、國民の方がたまりません。

○

昨の敵、今日の味方、とは言葉ではよく聞いてゐたが、文字通りに今の政友會はそれを行つて、政友本黨と提携……いや、合同まで進まう、といふことになつて頻りに幹部どころの往來が行はれてゐるやうです。これも、何等大義に依るのでなく、只、早く第一黨になつて内閣をとらうがために外なりません。内閣をとつて、政權をほしいまゝにすること……即ち官職の榮譽と利權とをほしいまゝに自分の手に握らうとしてゐるに外なりません。

その間、宣言の實行　民の利福などは、第二第三の端くれ問題にすぎないのです。

○

私たちは、女として、現在、政治上に三分の一人前の自由しか持ち合せてはゐないとしても、彼等政治家たちが國民生活をあまりにも無視して、利權獲得のために浮身をやつしてゐるのをみて默つてゐられませうか。

政治をして、ほんとうに私たち國民の生活をよりよくするために眞　國民のための政治たらしむるやう、彼等職業的政治家の手から私たち自身の手にまで奪ひとるために努力しなければなりません。

大阪婦人界閑話

鈴木千里

◇銀と銅

音樂家原田潤さんの話……………

『東京の感じを現はすものが銀ぶらなら、大阪の感じは道ぶらだね銀と銅。こゝに兩都市の差があると僕は思ふ』

銀座と道頓堀。潰しに賣つては銅より銀の方が値ぶち物であるがあながち銅が惡いと云ふのではない。然し東京で「銀」を味つた者は必ず大阪で「銅」を味ふであらう。銀を好む者があると同時に銅を好む者が無いとは云へない。銅を好む者こそ大阪に榮へる。

婦人團体の基調をなすものは、東京では銀。大阪では銅。この理由の眞實さは、大阪に住み大阪婦人界のむしのやうにならねば或は理解出來ないかも知れないが、兎に角、銅。銅。銅だ。

◇本野夫人の奉賀帳

東京では、本野刀自鳩山刀自嘉悦女史等が母性愛を高唱し、少年

パンの悲哀、ペンの悲哀

◇ホシ製薬で一千名の解雇◇

憚りながら、私ばかりはそこいらあたりの雇主氣質とは選を異にしてなります。まあ、見て下さい、從業員に對する行屆いたわが社の設備萬端を』と云つた鼠の誇りに鼻の高かつた星一さん。從業員も、星さんの誠意?に感激して、こゝばかりは、組合など作つて對抗する氣にはなれぬと、云つて、大人しく散りくバラくになつてよく働いてゐたのに。

『他の會社でどんな事があつても、うちの會社では絶對に解雇するやうな事はしません』と明言して、未だものゝ廿日と經たない七月廿三日に、ホシでは、突然六百何十名の解雇を申渡した、更に翌日百何十名の首に第二刀、その上第三、第四の怪刀がいつあま下るやも解らぬさいふ不氣味さ。

今更、組合よ、組合よ、とあがいてももうおそい。せめて、難を免がれた者も誠られたものも、今後資本家の理不盡な刀の前に自分たちの立場を擁護するために强固な組合を作つてたて籠るより外な

少女感化保護婦人協會を起し、その支部設立のため先月大阪で披露を兼ねた講演會と晩餐會を開いた。本野夫人の名に、東京の名流夫人の紹介でまかれた招待狀が一千枚。出席の返事の來たのが二十五枚。他は、申し合せたやうに病氣欠席だつた。これを見ても、大阪の名流婦人は千人が九百何十人まで常に病氣で、流石煤煙の都の非衛生狀態さを感ずるであらうが、大阪では、官邊の蔓によつたり、何々伯爵夫人の紹介だとか云ふつででで名流婦人を集めることは不思議な程不可能である。古來から、知事夫人や內務部長夫人が大阪の婦人會に一地位さへ占めたことは稀であつた。大大阪の婦人界は、靑森縣あたりの愛國婦人會と一寸遂ふ處がある。で、少年少女感化保護婦人會大阪支部は、少年審判所と提携して成立することはしたが發會式の費用さへ集らないために各方面に本野夫人の奉賀帳が廻された。寄附を申出たり、義理からでも奉賀帳に一筆いれたのは、俸給生活者の役人の奧樣達が雀の淚程宛である。大阪婦人界には少しの反響さへ生じなかつた。大阪の婦人に母性愛が無いのではない。感化事業に不賛成であるのではない。司會者側の笛の吹き方が拙なつたばかりである。

い。

につけても、資本主義萬歳の世に御奉公する新聞記者のペンの悲哀、東京日々子は報じて曰く『一千の女工は、會社との別離を悲んで泣き泪んだ』さ。一人でもの女工の心に問うて聞いてみたことがあるのだらうか。彼女らの過半は、一家の生計をその肩に背負うてゐるもの、でなくてさへ、この不景氣に外に職がある筈もないものを、僅かに二週間分乃至四週間分といふ粟粒ほどの解雇手當でオッ拂はれたんぢや、さしあたり明日からの暮しをどうしたらいゝだらうかに、『思はずも淚がこぼれて泣けて來た』のを知らないのか。

△託兒所に子供をあづけに來る女

東京市社會局事業課では七月上旬に、市內十ヶ所の託兒所に子供をつれて來る女二一八人に就いて、希望や、趣味や、學業などについて調査をした。

その結果、七割までは無學であつたが十四名の女學校卒業生があつた。平均四人半の子供を持つてゐたが、皆、子供の

◇孔雀續々寂滅

去年から今年にかけて婦人界の最大現象は既成團体の寂滅である。千何百圓と云ふ基本金のあるため、名前だけは殘して居るとしか思はれないピアノ同好會を始め、各團体は眞實その必要が無くなつた。一切の音樂會の興行權を獨占して居つた各大阪婦人團体の衰亡は大阪の洋樂熱を阻止したやうに見えるが、婦人團体の孔雀達の虛榮の犧牲から脫れて、これから眞に發達の道程にのぼるのかも知れない。ブルジョア婦人の團体は、團体として會員相互の團体的訓練なく、啀み合ひを曝露し、個人として戀愛事件などを惹起して、また社會思想の推移からその存在の必要が無くなつて來たのである。大阪市婦人聯合會は、市内六十餘の團体を包含されて居るが、無爲無能も甚しいものであり、また加盟團体とても、女教員會、女學校同窓會、宗教靑年會等で、社會的な一つの思潮に棹さして進むと云つたものは何も無く、只新年宴會と極めて努力を要しない年中行事を續けて行くばかりである。

◇乘替切符なし

名流婦人達の團体の最後は砂を嚙まされた孔雀のやうに哀れなものであつたが、他の職業婦人團体などよりも活氣はあつた。若い時

成長を唯一つの將來への樂しみにしてゐるのであつた。これらの人たちの最も共通した願ひは、『生活の安定』を得たいといふことであつた。

▽化粧品にも税△

現内閣は普選遂行後の政綱として、税制の整理について努力してゐますが、大藏省で決めたものは次の通り。

『所得税』免除の標準額を引きあげて、累進率を大きくし、資本利子にも税をかけることにする。

『營業税』外形的のものは除く。

『地租』田畑、山林の税を輕くする。

『相續税』もつと高くする。

『織物消費税』廢止。

『醬油税』廢止。

『賣藥印紙税』廢止。

『砂糖消費税』廢止。

化粧品税』新たに起す。

醫藥用の石鹼や洗濯石鹼、齒ミガキ等は化粧品といふことは出來ないから除き

白粉、チック、ポマード、化粧水、水油、石鹼及び齒ミガキの一部

等に、平均、定價の二割ほどの税を課

代の中核となすインテリゲンチャの夫人やモダーンガールのお嬢さんが、名流婦人の社交團体中に多く潜んで居ることは、大阪婦人界の一現象であつた。今、これ等の諸團体は寂滅した。然も次ぎに來るべき團体は生れない。團体の中核をなす婦人達さへ現はれて來ない。既成團体にヴイヴイツトな色彩を見せて居つたインテリゲンチャの夫人や、モダンガールのお嬢さん達は何處へ行つたのだらうか。私には解らないが、社會的生活を續けるべく乗替切符を持ち得なかつたことだけは事實である。

今、大阪の婦人界は黎明を待つ『その前夜』に入つたのである。

する筈である。化粧品組合側では、猛烈な反對運動をしてゐるが、婦人側から課税反對の聲が揚らないのをフンガイしてゐると云ふ。

化粧品は、これで又、値上げの口實が出來るわけであらう。

あなたの收入は？

近來、職業婦人の殖えてゆく勢ひは大きい。業務の上に女を採用しやうとする雇主も可なり多いが、雇はれたい女の數ははるかに多いのであるから、人を求める仕事の數よりも、職を求める人の數の方がずつと多いわけである。從つて職業婦人同志の間に知らず／＼して行はれる競爭に依つて、トクをするものは雇主ばかりで、給料は安いものがち、時間は長く、いくらでも働くもの勝ち、といつた風に勤務狀件は、落するばかりである。

次に掲げるのは、東京と大阪に於ける職業婦人の月收しらべである。大体の相場はこんなものとみて大差ないであらう

		事務員	店員	交換手	タイピスト	自働車の車掌
大阪	最低	15圓	20	15	15	25
	普通	30圓	20	35	25	35
	最高	120圓	70	90	125	90
東京	最低	15圓	20	21	25	
	普通	30圓	30	35	45	
	最高	80圓	100	90	100	

この表に依つても明かである通り、現今職業婦人の普通の收入は三〇圓乃至三五圓見當である。一人の女が自活してゆくのに、最も切りつめたところで毎月の電車賃から足袋下駄の類まで見つもつたら、四〇圓とかいてはやつてゆけないであらう。

中に親がゝりの者、小使錢稼ぎのものがあるからと云つて、そのために、どうしても自分の稼ぎでやつてゆかればならない多くの職業婦人が犠牲になつて苦しまなくてはならないとは、何といふことであろう。やつてゆけないから、やむなく親にもかゝる、親戚にもかゝる、他人にもかゝる人が少くないのである。忠實に働いて、而も生活不可能の賃銀しか支拂れないで泣寝入りになつてゐる職業婦人たちの、一番差迫つた問題はこゝにある。



時代に逆ふもの

池田小ぎく

一枚の障子に、この大切な私といふ人間をなげつけて、その障子と私との間に起るいきさつを、しみ〴〵とした氣持でみつめられたのは、それは世界がかうまで狭くなかつた時代の人間の樂しみだつたのです。

一片のパンに十本の手の出るのは、今の世の中です。今の世界には、どんなにあさつてみても、昔のやうにそんなに豐かにそんなに澤山に、幸福はどこにも落ちてゐません。それだけに、今の人間の幸福を渇望する心持は、も早や熟慮でも沈思でもなくて、只焦燥です。

詭辯と矛盾と瞞着と詐欺と僞善と嫉妬と怨恨と等々の渦の中で、幸福をあさつてのたうちまはつてゐる私の相をみませう。餘りにも痛ましく、淺ましい相ではありませんか。

私の相もまた、人並みに詭辯の衣を着てゐます

瞞着の帶をしめてゐます。詐欺のたすきをかけてゐます。そして僞善の袴をはいてゐます。

涙がこぼれます。

私も、もういゝ加減に勇敢であつていゝと思ひます。もういゝ加減に、奮起してもいゝと思ひます。

私共は今、何ものを投げうつてでも、靜かにしみじ〳〵と、あるがまゝの私自身を凝視しなければならないのです。詭辯や瞞着や技巧でかためた、かりものゝ私の相をではなくて、そのかりものゝ相を、より迷宮へ引ずり込むのではなくて、本當に正直な、ありのまゝの私の、のた打ち廻つてゐる、血みどろなその相を、しみ〴〵とみつめねばならない時が、今、目の前に來てゐるのです。そしてこの私といふ人間を、正しく裁いてゆかねばならないのです。

いつまでも、狹まりつゝある世界の流れに煽動されてゐるのでは、人間が今に消えてしまひます

誰でもいゝ、健なげな足どりで、むつしりと大地をふみしめて、今の社會に逆ふ人が出てほしいものだ、と、私はしみ〴〵さう思ひます。

殊に、毎朝教室で子供と顏を合はす度に、さうした感を一層深刻に味はされます。

『この世に逆つてくれるのはあなた方だ、あなた方以外には誰もゐないのだ。今の大人は、あんまり疲れすぎた。あなた方こそ自重してほしい』

と云つた、ほんとうに切迫つまつた感です。

私達の子供は、きつと世界に逆ふ子供でなければならないのです。世界のための機械人、不自由人であつてはならないのです。世界のための創造人でなければならないのです。小作りな、雜滞者であつてはならないのです。物知りな小利巧者であつてはならないのです。口さがない雄辯家であつてはならないのです。それは、偉大、巨人でなければならないのです。

偉人の作る世界は、どんなにかゆたかでせう。そして、どんなにかのんびりとしたものでせう。

偉大人の握手は、手段でも方便でもありませんそれは心からの合掌です。信仰に價する合掌です

私は、私の敎へてゐる子供の中から、一人だけでもいゝ、その偉大人を出したいものだと思ひます。出てくれゝばいゝと希ひます。

そんなことを思ふと、非常に緊張させられます

とにかく一日も早く、人間を、かりものゝ姿から、眞人間の姿に生かしたいと思ひます。狹みゆく世界の流れを、いゝ加減にくひとめて、より一層ひろいものに押し擴げたいと思ひます。その仕事を立派に仕つくしてくれるやうな、そんな子供を育てたいと思ひます。力が欲しい。力が欲しい

敎育家は、世の誰よりも、何時も一歩さきに進んでゐるべき筈であります。

時間は過ぎてゆく。そして時代は去つてゆく。お互ひが、お互ひの機械人であることに、不自由人であることに、卑怯者であることに氣づいてその人間を、確かな、偉大な、創造人に目ざめさせねばならない時代が來てゐるのです。

小利巧な、もの知りな、小作りな、間に合ふ人間、それはくろうとです。

くろうとの技巧にはもう飽きました。小器用なくろうとは、もう欲しくありません。しろうとだしろうとだ。しろうとでなければ、とても今日の人間を人間に仕上げることは出來ません。

そして敎育者は、その素人を育てるための先覺者でなければなりません。

時間は過ぎてゆく。時代は去つてゆく。

力がほしい。力がほしい。押しも押されもせぬしつかりとした、眞人間の相を、限りなく私は戀しく思ひます。

叛いた婦におくる（詩）

竹村浩

私は信じてゐた
何故なら　お前は赤い造花でな
かつたから
『私と約束したことを後悔して
はゐないか』
かう言ふ私をにらむだつけ
私は貧乏で其日其日に困つてゐ
たから

人と人とが戀することは
あれはいつたい何だらう
お前はそれを夢だと言つた
『夢と思つて下さいまし』
そう言つて、小鳥のやうにぬけ
て行つた

私は虚しい手を見て呆やりした
私は女を信じまい
私は女を呪つてやる
私は金の爲に見かへられた
あの女もそうだつた
そうしておまへもそうだつた

『親が許してくれません
あの人の所へ嫁かぬなら　た
つた一人の母が死んでしまふ
と言ふのです』
『私だつて生きては居られぬ』
そうしてお前は私の頸に刄をあ
てた

私はとう／＼死んでしまつた
お前はたしかに賢こかつた
お前は親兄弟に賢こい娘よと讃
められた
お前は夫に愛された
私はその時地獄の街に彷徨てゐ
た
［資本制度］
［家庭制度］
の看板がぶら下つてゐる
私は地獄のペンキ屋になつて街
中を塗りかへねばならゐ
お前が幸福だか不幸たか
二三年後に地獄にたよりがとゞ
くものならきいてみたい。

郷土の歌より

杉山碧

すが〴〵と阿呆鴉のなく音より　山しろ〴〵と明けわたりけり

×

見渡せば　山しろ〴〵と明けわたり　野のひとつ家に鷄の聲すも

×

金碧のひかりあまねし明け鴉　聲を限りにあまがけりゆく

×

久方の光かぎろひ四方の海　いましほの〴〵明けそめてけり

×

でゞ虫のそれの如しも轉々と　われ行くところトランク二つ

×

はろ〴〵と一本榎に鴉なく　夕べ信濃に入りにけるかも

×

みはる瞳にそこらエボタの木も遙か山も遙かに限りしられず

お願ひ！

昨年の大旱魃と大洪水さは五百萬の朝鮮無産兄妹を饑死、病死、凍死の線上に泣かせて來ました●こゝに又、六十年來未曾有の大洪水が加はつたさは、何といふ悲慘でせう。漢江洛東江の沿岸は、水の海となつて、兩河沿岸の農作物は殆んど全滅、家屋は倒れ、又は流され、濁流には無辜兄弟の死体が浮んでゐるさ傳へられます●みなさん、在鮮きやうだいのために一掬の涙を灑いで下さい。涙あれ…　同情あれ…

同情金は、多少に拘らず左記にお送り下さい。御一報下されば參上もいたします。

勞力の御寄附は、殊に感謝するところです。どうぞお力添下さい。

朝鮮饑饉水害慰問婦人會

東京市外巣鴨町一〇一九
職業婦人社扱

遠地近地

近況おたより

奥むめお

お暑くなりました、みなさん、お丈夫でゐらつしやいますか。今、焼けつくやうな陽(ひ)もやうやく西にかげつて、木かげ草かげが、涼しげに地上にユラ〳〵してゐるところです。

水でも撒かうかな、と思つたりしてゐたのですが、疲れたら、折角朝から大事におちつけてゐた氣持が、又乱れて、ペンが持てなくなつては大變と思ひ直して、とにかく机の前に座つたのです。そこいらから、熱した地上のぬくもりが、なほかげらうて來るやうです。

——あんまり過勞が續いたせいか、近頃私は非常に疲れが早くて困つてゐます、それに、四月から五月にかけて九州方面に旅をして歸つてからのちずつと、何となしに落つかない氣持で、いら〳〵して、どうも原稿が書けないのでした。六月號も、七月號も、この八月號も、物たりない編輯振りのまゝに世に出して、心とがめて苦しくてなりません。

但、この雑誌の方の仕事も、やうやく人手が揃うて、當分このまゝ進んでゆけさうですから、秋に入ると共に、雑誌以外の仕事にまでもボツ〳〵手がのばしえられることゝ喜んでゐます。この『婦人と勞働』を創刊してからこゝに三年、漸く仕事の上の基礎——それも、安心して第二歩、第三歩を踏み出し得られるまでの基礎が出來た、と考へることが出來るまでに漕ぎつけられたのは、ほんとに嬉しいことです。

旅さきから歸つて來ると、いつも十幾本かの力づけられる、熱心な讀者、ありがたい友人、未知の同志らの手紙に勵まされては、私は旅の疲れも忘れて夢中になつてしまひます。『これらの人々が一つになつて、そして社會的に動くこと、随分大きな力として動くことが出來るな』こんなことを考へては、私は、一層勇敢に働き出すのでした。

世の中は、もう余程移つてゐます。實名や、お道楽や、お義理や、おなさけやの婦人運動はそれぞれ自滅の道を辿つて消えてゆきました。これからほんものゝ婦人運動が起つて來なければならないのです。ほんものゝ婦人運動とは〃であるか。

それは、ほんとうに婦人各個人の生活に根ざして初められるところの、生活即ち運動への協力です。問題はいつも、私たちの、この今日の生活をどうしたらいゝか、の中にあるのです。

私たちの生活を深く掘下げることにお互ひに眞剣でありませう。

大山まさ子

大阪朝日新聞で、職業婦人社がいよいよ關西に旗あげをなさるといふことを知つて、喜びのあまり手紙を差上げます。ひとり大阪ばかりではなく、総じて婦人界は、いま焦点を失つて、動きかけたい

然し、動き出さうさするには核心がないさ云つた風な頼りなさにぢれてゐると思ひます。婦人参政權の運動が、直ちに、どれだけ、私たちの生活を光明に導いてくれられるか、さ考へたりすると、どうしても、私は、もつと、實際の生活に密接なところから初められる運動が必要ださ思つてゐました。　みなさんの　健康を祈ります。私も、犬馬の勞をとりたいと思つてゐます。奥さんの婦人界の現狀に關してのお意見は、新聞を讀みつゝ、さうだとも、〳〵さ、手を握りしめて同感してゐました。…………………

土屋ならえ

お姿と記事さを新聞で拜見して、お目にかゝれなかつた事を殘念に存じました然し、九月に御來阪、お待ちしてゐます。大阪への出發、よき前途の多幸を深く祈ります。大阪に於ける職業婦人への唯一の味方は、あなたに依つて開かれる事が私は衷心から嬉しくてなりません。小さいながらも、又、時には、お役の端にも立たばさ存じてゐます。(下略)……

成田美子

(前略)農村婦人に與ふ、の續きを拜讀して、實際の無産階級者の苦しみを、深く感じました、早く起つて叫びたく、どうにかせねばならない、このまゝではゐられない氣もちで一杯です。どうすれば、こうした營利的な者を制裁出來るか、具体的にその方法や順序をも續けてのせて頂いて、知識を與へられたいと思ひます

都會の職業婦人界の不景氣さも、いろ〳〵のことを考へさせられました。かうして靜かな田舍で香氣に暮してゐることに、堪らない焦燥な感じました。早く、いゝ機會を與へられて私も、出來る限りの力で働きたいさ思つてゐます。

高橋くら子

婦人ばかりでやつてゐられる御社が、なつかしく思ひます。今後ともよろしく御指導下さいませ。私は、數ならぬ身を以て水平運動をしてゐるものでございます。傳統的因習に依つて、同じ人間である私たちを差別したり、迫害したりするこの不合理な社會に向つて飽くまでも人間禮讚を叫び、世界に誇りうる國家を建設するためには、出來る限り奮鬪する考へでゐます。

今村しげる

御忙がしい御旅行中のおはがき、嬉しく拜見しました。兄さんにあのおはがき送つて上げたいけれど、獄中生活の兄さんにはどうする事も出來ません。本當に殘念で堪りません。あのおはがきを頂いた時は、別にどうと云ふ意味もないおはがきでしたけれど、何んだか嬉しくつて毎日〳〵ぐず〳〵した生活に引きずられてゐる私が、うんさむち打たれた樣な氣がしました。一日でもぐず〳〵してゐる事が出來ない樣な氣が充分に滿ちて來て

も、無智な私にはどをする事も出來ません。

婦人の最上の立場に戰つてゐらしやるあなたの本によつて、私達はどんなに引きしめられるか知れません。そうして血は高く／＼波打ちます。新らしく、しつかりふみしめた足どりで步み出さなくてはなりません。其の步み方をあなたによつて教へられてゐる私は、いたづらに感謝の心持が一杯になります。

田中歌子

先日は御葉書を有りがたう存じました。七月號の婦人と勞働を落手致しましたから御安心下さいませ。早速御返事差上げやうと思つてゐましたが、忙しいためとう／＼こんなに後れて仕舞つて、甚だ失禮致しました。今日は一寸暇がありますので、ペンを取りました。奧樣が雜誌に講演會に常に私達婦人解放のために御働き下さつて居ります事を心から嬉んでゐます。わざわざこちらの婦人界の樣子を御聞き下さいましても何からお話してよいのかちつとも解りません。私は昨年十月矢中（村名）に初めて我が群馬縣政治研究會第一支部が生れました時から、入會して居ります。初めは婦人會員はわずか二人でした。殊に私は遠い隣村からたつた一人で入會致しましたので近所の惡評、家庭や親類の壓迫、ほんとに堪えられない苦痛でした。其の後政研支部もだんだんと殖ゐましたが、中々婦人は入つて來ません。そこで私達は去る四月、皆樣と色々相談して、支部でなく、全縣的聯絡を取るやうに、群馬縣政研婦人部を造りました。それ以後だんだんと會員も增加しまして只今では拾餘名程あります。家庭の事情や、激しい仕事のために中々思ふやうな運動も出來ません。婦人部の集會や執行委員會にも、ちつとも出席で來ませんので皆樣にお氣の毒でなりません。今月の中旬頃には、一度研究會を開いてしんみりと語りたいと思つてゐます。其の時には又色々とお願ひするかも知れません。

私は今だ二十才にならない少女です。其の上教育も高等小學を終へたばかりで何にも解りません。

之からは多くの皆樣から鍛えられ、鞭撻されつゝ進んで行きたいと思つて居ります。何卒御指導を願ひます。政研の運動にも、もつと深入りしたいと思つてゐますが、家の事情で止むを得ません。自由がありそうでないのが農家の習慣ですから。それも忙しいばつかりではありますが。それだけに上つ調子でなく眞面目に直底から運動の根本精神の理論をつかまなければならないと思つてゐます。もし私のやうな者が、少しでも無產階級運動の爲に役にたつやうならどんなにうれしい事か解りません。私達農村プロレタリアは、同じく苦しみを共にしてゐる都市の多くのプロレタリアと固く手を握つて、勇敢に人類解放のために戰はねばならないと思ひます。

何時か新妻樣の御講演は一度お聞きした事がありますが、今だ奧樣のお話をお聞きした事はありません。これからはだん

ぎんと、皆樣のお話が聞けることゝ思ひます。四月の大會にも是非行きたいと思つて居りましたが、やつぱり家庭の事情で行けませんでした。早く此の重い鐵鎖からのがれて、自由な社會に出たいと思つてゐます。

よりよき社會の建設のために運動しませう。

奥氏に

京都の愛讀者

『婦人と勞働』の編輯主任奥氏に申上げます。私はこの雜誌の愛讀者として公言の出來る者です。と同時に、月々の内容編輯の段どりには、少なからず興味を以てゐます。そして編輯者たる貴女に對して、その御努力と健康の程を陰乍ら祈つてゐます。ところが、の私の祈りは、何となく容れられてないやうな氣がします。少々皮肉かもしれません、過激かも知れませんが申します。

貴女は　この『婦人と勞働』を專心おやりになつてゐるのですか。それとも片手間ですか。私は、あなたが御執務の傍に、つれにお子供をおいてゐられるのみでも同情にたえないと同時に、御心身共に健康に保ちうるやうにと御心配申上げてゐる者です。

就きましては此間は、主婦の友社主催の九州地方御講演にまで御苦勞下さいました樣子、主婦の友で拜見して、又、今日『婦人と勞働』を拜見して、あなたの元氣旺盛に敬服しました。そして日頃私が御心配申上げてゐる事の裏切られたのを却つて喜びました。

然し、これは多忙を以て發行のおくれることを辯解遊ばされる御誌に對して、果しておために、ることでせうか。むろん、そのために幾頁かを埋めてゐられます。然し私たち愛讀者は、いつも、少い『婦人と勞働』の頁に望むところは多々あるのです。

私たち愛讀者を子供扱なさらぬやうに資金のための身賣、それはあまりに卑劣でせう。でなくば、内を外なる批難が起りはしないかと思ひます。

前田つぎ子

（前略）不景氣、失業、生活の不安、なんといふ言葉が、何處の隅でもきかれることでせう。今日此頃、職業上から感じる不安なんていふものは頓と無い、誠に惠まれた、感謝すべき位置にあります私は張合の無い仕事などと云ては勿体ない事で有りますが、世には『何やらの何怨み』とか云ふ諺も有ります。私の樣な職業を持て居る者は、余り世相に遠ざかつて居る樣な氣がして物足りぬ感じがします。では一つ、安全の殼から飛び出して、苦の体驗をして見るかといふと、夫れは現在の境遇がゆるしません。して見ると矢張、其安全　網にしつかり縋り付いて居なければならぬ譯で、そうすると結局、安と不安の境を辛くも渡て居るので、我こそ安心と涼い顏して居られる譯でも有りません。職を求めて得られず、不安な日日を過ごして居られる方に親しく接していろ〳〵御話も伺たり御力添へもして見度いと思ても、今の樣な外界と接觸交渉い少い境遇では夫れも出來ませんで殘念です。（下略）



愛する祖國に

高群逸枝

愛する祖國に『片田舎の三人の少女』からの最初の手紙を送ります。私は今朝、仲のよい二人のお友達に別れて、いつもの朝日の昇る谷の縁から歸つて來ました。

『ワイの流れよ。林間の逍遙子よ』此の感情は强くて、胸は飛び立つほどでした。目の下の谷には金色の朝霧が立つてゐました。遙か向ふには白山、釋迦院岳、矢山嶽等の名だたる奥山が突兀峨々とし

て登えてゐました。私達は今朝、私達三人の意思を祖國に示さうと云ふ誓ひをしました。祖國がいかに私達に辛らくて、私達を壁の中に埋め殺さうとする意志を働かせようとも、お待ち、愛する祖國よ私達三人の肥後娘が、いかに地平線に大旗を吹き靡かせるかを。

悲しい時にも嬉しい時にも、私達三人の寄り集る場所は、『朝日の昇る谷の緣』です。私達は『精神的』と云ふ意味を『朝日の昇る』と云ふ意味であるとしてゐます。通常『精神的』であるとされてゐるものは、森嚴とか神秘とか高遠とか云ふ『月』に因みあるものゝやうです。『東洋的』と云ふ言葉は『陰性』を偲ばしめます。が、それに反して私達の祖國は、古來『朝日の昇る國』でありました。東洋的である女性は『陰性』とされてゐます。が、それに反して私達の祖國では、女性は『陽性』でありました。私達の祖先は『朝日の昇る』谷間に住み、朝日夕日の美しい歌を作りました。清らかな光の國民、光の野邊、光の河邊、私達の源は光で滿たされてゐたのです。私達は最初『東洋的』である宗教と文明とを受け入れました。それは結局私達を息づまらせました。次に私達は、西洋的である宗教と文明とを受け入れました。そして最早やそれも私達を息づまらせようとしてゐるのです。私達は私達の來るべき『新東洋主義』の黎明が、必ず私達の祖國から生れるものであることを信じてゐます。

私達三人の片田舍の少女、朝日の昇る谷の緣なる私達の談話は、祖國と希望とで充滿でした。私達は叫びだしたり、愁ひに顏をひきつらせたりしました。あゝ私達に學問さへあつたなら。

私達の家庭は暗くて、むさくるしい壁の中には病氣と欠乏とが充滿してゐます。親達は今日明日の心配の爲めに長い一生を臺なしにします。

『わたしや默つて帽子を取つた。針から。光り輝くところを、わたしや歩いた。怯えて。豚の奴めは夕

日を見てゐた。窓から。水のぎらつくところを、彼奴は見てゐた。小鼻で』此れはお梅さんの即興詩です。お梅さんは酷く悲しさうでした。それは彼女の父親が或る處にお金を借りに行つて、はね付けられたからでした。家を出るとき彼は『彌市坊の下駄はぺしやんこだな』などと云ひながら上機嫌で出て行つたさうでした。が歸ると直ぐ、『麥の粉でも買つてこい』彼はかう云つて机の抽斗から銅貨を七つ八つ出しました。

まだ幼年であつた時分のことをお梅さんは私達に話しました。それは鎧戸のやうに重い記憶でしたそれを彼女は『樂しい幼年期』とよんでゐました。それは山の向うの酷く寒い村でした。年中雨が多くてじめ〲してゐました。彼女は眞つ暗らな壁の中に住んでゐました。小さな明り窓の向ふには、日本三急流である筑摩河が恐ろしい音を立てゝ流れてゐました。

彼女はお友達も無く、一人で遊びました。色々な場所にも駈けて行きました。人の集つてゐる往還にも行きました。彼女は彼女の速力で母親を吃驚させることを喜びました。頭上の色褪せたリボンは羽毛のやうに飜へりました。が家の中では足音一つ立てぬやうにしました。父親と母親とが何か云ひ爭つてゐる時などには、彼女は一層ひつそりとなりました。『麥の粉でも買つてこい』と父親が云ふと、彼女は急に勢よく飛び出します。うちでは母親が葱束を湯の中に浸けて待つてゐます。父親は眞つ暗らな壁の中の明り窓の下で、何の慰さめも無く其の日の夕食を待つてゐます。

長い年月が立ちました。彼女は今年十八になりました。彼女が私達と知り合ひになつたのは、彼女が尋常四年、私達が尋常三年の時でした。その時彼女は父親に連れられて山の向ふの村から此處の谷間に引き移つてきたのでした。學校での彼女は群を拔いてゐました。が、受持訓導は彼女を決して首

席にしませんでした。受持訓導は師範出の若い青年でした。彼は啄木を崇拜してゐました。彼は時々私のうちに遊びに來たり、道で私を捕へたりしました。そして感傷的な話を私にして聞かせました、が私は彼を好きませんした。と云ふのは前の一件もあるし、それに私は退職校長の娘でした。父が退職になつたのは一つは此の男、此の新思想家なる訓導の告口(つげぐち)に依つてであると云ふことを私は信じてゐましたから。

最も新思想と云つてもそれは極めてあやふやなものでした。が彼は一方拔目のない敎育屋でした。現代では小說家は小說屋、敎育家は敎育屋、宗敎家は宗敎屋と云ふやうに、すべてのものが『屋』になつてしまつてゐるのです。『屋』の特長は技巧に長けてゐること、器械的な解釋や知識の羅列やボロを出さぬ事に妙を得てゐる事等です。『方言でない』言葉で演說し、敎授、管理訓練などの知識に忠實であり、時の流行に應じて体育や理化敎育や補習敎育に熱心を示し、朝起デーとか、勤勉デーとか云ふ『デー』を宣傳し、『部落の人には同情しませう。朝鮮の人にも同情しませう』など云ふ猫撫で聲を敎養ある者の聲であると信じてゐる敎育家、此れが現代の敎育家としての上乘なるものでありませう

ところが私の父は頑固で喧嘩早くて、村民とも郡視學とも喧嘩します。方言まる出しの言葉で『ぬしどんが成長(ふと)つたなら、金持ちだらうが村長だらうがびくともすんな。威張つとる奴ァ片つ端しからどやせ』と云ふ講堂修身をしますかと思ふと、『デンマルクの百姓は頭で百姓する。』と云ふ敎訓を父兄會で垂れ、模範を示すために少しばかりの禿山を借り受けて茶園を作り、遂にそれを枯らします。斯くして退職になり、月十五圓の恩給で暮らさねばならぬことになりしました。

退職校長となつてからの彼は、一人さびしく朝顏を植えたり盆石を集めたりしました。母は賃仕事

をして父の酒代を得ました。父はお梅さんの父親を招待して二人で呑みました。お梅さんの父親は信用組合の小使をしてゐました。町から反物を買ひ込んで來て、それを所謂安い値段で配つたり色々なことをしてゐました。組合員は土地の金持でありました。それは恰も株式組織のやうなもので、恐ろしく儲けてゐると云ふ評判でした。がそれに背いて町から直接にでも買つてこようものなら、村の住民としての汎ゆる生存權は汎ゆる陰險な手段で迫害されるのです。此の爲体が而もお上では『模範村』なのです。村長や村會議員や會員達は郡と縣との兩方から表彰されました。新聞には『益城の山奥の人道的模範村』と云ふ記事が出てきました。『何が人道的だ』と私の父はかん〳〵憤りました。するとお梅さんの父親もむきになつて慷慨悲憤しました。それから彼等は樂しかつた青年時代の話をし合ふのでした。私の父が城北の學塾の話をすると、お梅さんの父親は城南の學塾の話をしました。またお梅さんの父親は、おうめさんの學力が群を拔いてゐるにも係らず、首席にせぬと云つて、若い訓導を罵しりました。

全くそうでした。首席には慶子といふ容色のよい金持の娘がなつてゐました。若い訓導は云ひました。『金を儲けることが果して卑しい事だらうか。容色のよい娘を好きになるのが果して不正なことだらうか、好きな娘を好きな位置に置くのが、果して不自然な事だらうか』彼の思想は正に近代思想からきてゐました。近代思想は正に科學からきてゐました。科學は正に進化論からきてゐました。

善惡を問はず個人の自由は尊重されねばならぬ。ところで其個人の自由とは、利害の自由の事でした。自由民權の制度は物質民權の制度でありました。自由とは物質の自由、我慾の專横のことでした。おうめさんの才能は群を拔いてゐました。彼女は内氣で瞑想的でありました。彼女は猩紅熱で寢て

ゐる子供達の看病や、親達の不斷の心配に對する氣苦勞やで始終青ざめてゐました。また何處から手に入れたのか色々な書物を持つてゐました。卒業後はなほ一層彼女は書物虫になりました。

お松さんと私とは同級でした。首席は私でしたが、それは私が缺げなく出席したからでした。彼女はお父さんにもまして憂鬱な、ゐるかゐないか分らぬやうな娘でした。が彼女は勝氣でした。彼女は目を上げて直視し、屹として威風を示す癖をもつてゐました。彼女は缺席がちでした。一軒の小さなあばらに彼女は住んでゐました。そこは暗い濕つぽい谷底でした。家は二軒しかありませんでした。彼女の父親は默りこくつた、憶病なお爺さんでした。時たま人と道で逢ふことなどがあると、それが子供であらうと大人であらうと、酷くうろたへました。母親もそれに應じて茫とした人でした。彼女は若い時にはさぞ奇麗であつたらうと思はれる上品な容色をしてゐました。そして重くるしいボロを着て、ものうさうな樣子をして始終お爺さんと一緒にゐました。

私達は他人並に學問をする譯には行きませんでした。人は隣村の高等科へ行くやうになつても、それさへも、私達は行けませんでした。私達は書物虫のお梅さんを中心にして有るもの皆讀み盡しました。私の父が亡くなつたのは一昨年のことでした。それは冬の寒い晩でした。父は長い間醫者にも餘々かからずに寢てゐました。むさくるしい壁は父の直ぐ頭の上にありました。風の酷い晩などには、壁土がぼろ〲こぼれ落ちて、父の病みほほけてゐる顏を打ちました。『此のまま俺は死ぬのかな。生れ故鄕を出てから今年で三十年になる。俺は秀才だつたが。』と其のお終ひの晩私の父は云ひました。

その後私は母と二人で賃仕事を受け合つて働らきました。親類も無ければ知己も無く、あるものは只、冷やかな同情、嘲りを含んだ憐憫だけでした。或る村會議員などは、夜夜中、酒に醉ふて遣つて

きました。私達は灯りを消してゐました。と彼は石や棒ぎれで、やけになつて叩きました。戸口は今にも礙れそうでした。私達は仕方なく其處をあけました。彼は火のやうになつて憤つてゐました。『何處の馬の骨か分らない癖をしやがつて、俺達の村でよくも圖々しく飯食つてやがる。追ひ出すぞ婆』母は口惜しがつて涙をこぼしました。私は極度の輕蔑の目で母の後ろから彼を見遣りました。

私は父の遺した書物の中から目星しいものは皆拔き取つてそれを私達三人の讀む料にしました。その中には四書や通鑑などまでありました。また五經のうち春秋禮記を余した他は皆ありました。滑稽であつたのは幼學便覽と云ふものを發見して、それに依つて作詩したことでした。先づ私に次のやうなものが出來ました。

扁舟回掉避炎暉。兩岸長堤揚抑坤。
夕照斜來池上面。醉歌歸晩色催時。

此れは韻が滅茶々々でした。ただ平仄を踏んで作つたのみでした。而も醉歌して歸るなどとは少女にも似合はぬ事でした。

和書には源氏、枕草紙を始めとして、土佐、更科、十六夜、和泉式部等がありました。軍書や淨ルリ本、支那の小説を飜譯したもの等もありました。『デンマルク』の百姓論や、農村に關する色々な研究物等もありました。奇異であつたのは、幸徳秋水の著書や、ラッセルの著書などのあつたことでした。お梅さんは惡の華や、ド・プロフオンディスや、バイロン詩集や、相互扶助論や、哲學全書等を持つてゐました。遂に私達は私達三人の哲學を創成することの出來る域に達しました。

私達は『日本』と云ふ全体に對し谷の緣から希望と多感とを燃やしました。木の葉のさわめきにも

冬が北の方から遣つてくる寒さにも、私達はめげませんでした。

お松さんは瞑想的でした。美醜の原理、宇宙の原理、宗教の批判等に對して彼女は恐らく熱心でした。私は手を打てば蝶が舞ひ立つと云ふ手蝶山に駈け登り、遠く阿蘇山の煙を見、あこがれて笛を吹く少女でした。私は菜の花の香ひが好きでした。私を眠らせる閑かな林が好きでした。木柵がすきでした。私は花の多い谷間にお松さんを訪ねることがすきでした。

夕方の寒い頃、お松さんは鵞鳥をよび集めてゐました。鵞鳥は流の縁から二羽三羽と寄つてきました。家の中には父親と母親とが正体なく酔つ拂つてゐました。と隣家の目のぎよろりとした小父さんがそれを窓の外から覗き込んでぷり〳〵しました。お松さんは私を見て眞つ赤になりました。そしてけたたましく鵞鳥を呼び集めました。私は急いで歸つて來ました。

愛する祖國よ。私は何から書いてよいか分りません。私の次にはお梅さんが書く筈です。彼女は乾度非常に上手に書く筈です。だから私はただ、序幕としての概念的な務めを果さうと思ひます。

關東に大震災があつて、帝都の三分の二は烏有に歸したと云ふ報せがあつたとき、村の役人達や有志達が物知り顔をして采配を振ると、青年や婦人達が偏に忠節を盡くして寄附金を取り立てゝ歩いたことは苦い感じを私達三人に與へました。

贅澤が過ぎたのだ。天譴だ。と人は口々に云ひ合ひました。かう云ふ時節には、女流教育家などいふ面々がのさばり出るに違ひはないと思つて私たちは憂欝になりました。果してさうでした。彼女達は『節約第一』とか『勤勉力行』とかの哲學を振りかざし『風潮が改まつた。女學生達の服裝なども涙ぐましいほど健實になつた。』などと云ふセンチメンタルを耻づかし氣もなく出してゐるのです。

私達はひどく憂鬱になりました。私達は『贅澤』を善いとも惡いとも思つてはゐません。ただ私達の念頭から『祖國』が離れずに居り、『宇宙』が離れずに居るとき、『國民』が離れずに居り、人類が離れずに居るとき、私達は憂鬱になるのです。そして此れは人類の本來の宿命であらう、一つの煩腦であらうと思はれるのです。私達の客觀が擴大して眞空になつたなら、私達の血は却つて湧き立つに至り、熱は却つて憂鬱になる筈です。そのとき私達に『贅澤』が必要でせうか。否愛のみが必要です。愛と自然とがありさへすれば私達には十分です。ただ私達の周圍がさうでよい時、私達の一人がさうであり得る譯はありません。

組織が『贅澤』を强ひて居るのだと私達は決議しました。また次に思想がそれを强ひてゐるのだとしました。私達は『働らけ』主義よりも『讀書へ』主義を主張しようと決議しました。農夫や勞働者にも『大學』や『科學研究所』を自由に與へる必要があるのです。一度讀書の世界に觸れ得た者にはすでに『精神生活』の領域が附與されたことになるからです。社會主義は釋迦やキリストの世でなくては行はれぬと云ふのは嘘です。『精神生活』へ人を導くための制度が具備したならば、人は容易に『金儲けの爲めの生活』から脫れることが出來ます。が、その爲めには食ふ生活の基礎を確定させる必要があるのです。即ち共產共働の生活です。一日の半分は共產共働します。『食ふ』ものを作り出します。その半分は『自分のほんとうの生活』に親しむといふやうにするのです。

私達は（君主共產主義）がいまの日本ではいちばん實現され易い主義であることを主張しようと決議しました。私達は一時も早く現在の忌まはしい制度、悲慘な境遇から脫れたいのです。私達は臣下が聖權を冒さなかつた以前の我國の歷史が、君主共產主義、君主社會主義であつたことを語り合ひま

した。君主は眞理、眞理の獨裁を措いて他の獨裁のいかに望ましくないものであるかは云ふまでもない事です。

私達は目下（儲ける爲の働き）の重視された制度の下に眞つ黒になつて働いてゐます。此處では（食ふ爲めの働き）は閑却されてゐるのです。國家がそれを閑却してゐるのです。私達は（學問をしたい）とか（親にいゝ生活をさせたい）とかの希望の爲に働らきに働らいて而もゼロになり終ります。金を儲けてからでなくては何事も出來ない世の中、短い生涯、私達貧乏人が自暴を起さぬのは嘘です。私達は私達が聰明であればあるだけ（正當な道）を拒否します。急に私達は（悲慘）を踏みにじつても知慧の實を掠奪すべく突貫します。私達には（不良少女）の名が冠されます。私達は孤獨になり終ります。迫害は八方から來ます。あゝ私達に自由と自然とを與へよ。

食慾と性慾とが人間本來の普遍性であると爲す思想があります。そしてそれは無限なる種族保存の爲の慾望であると爲す思想があります。私達はそれは種族が合体し人類が合体し宇宙が合体する未來への、所謂種族保存、否生命維持であるとなします。自然の本意は（合体）にある。それは宿命である。宿命に順はない時私達は苦しむと云ふ哲學を私達はもつてゐます。

私達は最初ヘエゲルの哲學体系に最も強く惹きつけられました。しかし彼の（絶對者）の説明が私達には不滿であり、また彼自身不徹底でありました。私達は遂に私達の哲學体系を編み上げました。思考即實在に對して私達は情即實在と云ひます。主知的哲學、主意的哲學のみである從來の哲學に對して、私達のは明らかに主情的哲學です。それは絶對です。それは眞理です。

私達は云ひます。（汎ゆる生成は偶然の必然である、そは因果の法則によつて、無から有、有から無

へ行き、その一徑程が更に幾回となく輪廻するものである）と。進化創造論でいふ進化は、無限思議し得べからざる進化であります。が私達のいふ進化は、至つて有限です。それは無の狀態から有となつたものが、再び無へ行く爲めの抽象化的過程をいひます。したがつて精神生活は常に擴大されつゝあるのです。それは執着なき往生へ行く爲めにです。それは嚴密にいへば、我々個人個人の絶對に離れ離れになつては行けない境地なのです。私達は爾くつながつてゐるのです。地にくゝりつけられ、否地自身であり、汎ゆるものは同一物であるのです。心の起原は無の狀態に或る動機が生れて瓦斯体を作つた、その動機即ち原因です。物の起原は結果即ち瓦斯体です。瓦斯体更らに因を發して地球の果を作り、地球更らに因を發して生物の果を作り、生物更らに因を發して理知の果を作り、理知更らに因を發して空化するといふやうに、斯くの如きことは絶對者の意圖によるものでも無ければ、また從來考へられてきたやうな單なる轉化でもないのです。なぜなら瓦斯体の原始から空化空散へと行く必然有限の過程があるからです。そして物質は、瓦斯体の原始体、土、各種の生物等、また地球それ自身ともに並存しつゝ、各自は各自の進化の過程、有から空へ行く過程を辿りつゝあるのです。

私達の思想が此處にきたとき、私達は切に科學探究の憧憬に打たれました。私達は地球の自轉に對しても、引力に對しても、或る切なる疑惑に打たれてゐるのです。また太陽系の生成及びその進化に對しても。しかし私達は私達がそれを研究するには、汎ゆる設備や材料が必要であることを知つてゐます。私達は即ち恨を呑んでそれに耐へてゐます。あゝ機會の均等であることを切に祖國に望む—。私達に圖書館と研究所とを與へよ。が、更らに轉じて祖國の狀態を見るとき、私達は更らに新らしい憂ひに閉ざされずにはゐられなくなります。私達は諸外國の狀態、物質文明の末路の苦悶を感じ、第

二の世界戰爭を感覺します。それは所謂列强と汎ゆる資本主義的雰圍氣の中に醸されてあることなのです。それは個人と個人との闘爭ですそれは我慾と我權の執着と專横とです。さなくば恐怖です。さなくば人類に對する無理解からです。人類に對する無理解とは、人類が徹頭徹尾相敵視し合ふものであるとの見解に基づくものです。ところがさう云ふ思想や危懼や不信は、却つて自身戰爭を招致します。そして自身共倒れになります。その後でなくては人間は自覺しないとは……。災後曝露した軍閥的醜体は私達を殊更ら憂ひに沈ましめました。嘗て牝鷄の晨を告ぐるは云々と云つた男達が、今は彼自身牝鷄である醜体、危つて内乱を惹起せしめ、外交問題を突發せしめる種子を自らの無智の中にもつ男達を苦々しいことに私達は思ひました。

　富國强兵は單なる一空想に過ぎません。富國を志すとき其の兵は必らず弱兵になります。强兵ならんとせば、擧國一致を措いて外にありません。ところで現在、愛する祖國よ。お前の國民が果して擧國一致たり得ようか。朝鮮臺灣、農民、勞働者、更らに知識階級、これらの者は所謂内乱の有力無類な種子である。そして眞理はどちらにあるのだらう。眞理のある處でこそ擧國一致は實現する。ただ君側の奸臣、否奸制度、奸執着のみが、神國の國是を臺なしにしてゐるのであります。神國の國是はわが日本人は精神的國民である、眞理の民衆であるといふ處にある筈です。

　第二の世界戰爭に對する我國のとるべき最善の手段はあくまで防避にあります。それが最も聰明な者のとるべき手段なのです。新東洋主義は無抵抗の抵抗を可とします。それはトルストイやガンヂイの説く處と同樣にです。日本人は亡びつゝある西歐主義に對して、もつと超然たる處があらねばなりません。亡び行くもののマキゾヘから自重する處があらねばなりません。それに就ては先づ日本自身

自覺しなくてはなりません。

眞に自覺してゐる者のみが、ユウヅウのきく防避の手段や汎ゆる物質力をも取り得る筈です。武道の極意は斬るに無く防ぐにあります。彼れは我慾と我權を以てきます。その心は狹くて險はしく逼つてゐます。此れは愛を以てそれを受けます。その心は廣くて豊かです。思ふに戰慄すべき未發見の（或ひは秘密裡に發見されてゐる）科學的方法に關して幾干の防備が私達に出來てゐますか。それは極めて內部的な防備を第一とします。即ち國民皆人間である必要があります。國民皆科學者である必要があります。現在の軍閥根生の如きは、むしろさういふ種類の人力兵力のいかに微々たるものであるかを示すに過ぎぬものだと思はれます。國民皆人間であるとき、私達の團結は火よりも熱く熾んです彼等物質の徒の襲擊が假りにあつたとしても、眞理は私達を擁護します。

私達三人の少女、片田舍の谷の緣なる私達の胸は燃え立ち、かつ憂ひに閉ざされました。私達は悲しくなりました。屢々叫び出したくなりました。

私達は十日前、それは今思へば不幸な暗い日でした。いつもの樣に谷の緣に集まりました。お梅さんは私達に「その前日」と云ふ新作の小說を讀んで聞かせました。彼女は一遍も行つたことのない東京市を彼女の驚ろくべき想像の翼によつて抱き上げました。

『かげでは惡魔が云ふ。野末には金の霧が散り、巷には金の鐘が鳴り、人は金の戀をする。やつらが金といふ趣味にとりつかれたといふのは何しろおめでたい事だ。』此れは序のなかの一句です。さて序の中で彼女は云つてゐます。

『私は災前の東京市を書かうとしてゐる。併せて「女の叫び」を書かうとしてゐる』と、贅澤と婦人との

關係に就ては『贅澤の絶頂にある時彼女は幸福であるが。否、彼女は虚無的である。否定的である。刹那的である。厭世的である。彼女は彼女自身の感情を强硬らせてゐるから生ずる汎ゆる苦悶と寂寥とに襲はれる。それにも係はらず彼女は行くであらう。贅澤へ。贅澤へ。それは尤むべきことでは無い。それは虚榮ではない。』『從來女の叫びとして知られてゐる「權利」と「經濟」との二方面、それの根本原因が愛であることは分る。愛ある夫婦には權利も獨立も無用だからである。では愛は何故不可能であるか。それは男が美人を好み、女が金持を好むと云ふやうな、即ち物質から來てゐる。女が金持を好む理由は子供を生まねばならぬ故にでは無く、自分の美を完全にしたい故にである。それは虚榮ではない。また虚榮であるとしたところで、醜婦を許嫁にしてゐる男がそれを嫌つて美人に走るのを常然であるとなすのと同意味に當然である。なぜならかう云ふ時代では男女各々の目的は愛では無く勝利であり獨占であるからである。かう云ふ時代、醜婦は極度に敗北してゐる。それは女の立場は男の感情如何によつて支配されつゝあるからである。醜婦は愛のみにではなくて食ふ道に於てですら極度に敗北してゐる。人はもつと此の事に注意してもよいではないか。而も婦人の全部、いかなる絶世の美人もが、決して醜婦でないと云ふことは云はれぬ。假令貧乏と家事と子を生む事と病氣とからは免かれ得たとするとも、年齢から彼女が免かれ得ることは決して無い筈だからである。結局すべての女は不幸である。一人殘らず不幸である。彼女が聰明であればあるだけ彼女は孤獨である。虚無である。それは如何ともしがたい。愛は結局一種の感激とか道徳とかに依つてもたらさる種類のものではない。ただ、實質の進化に依つてのみもたらさるものである。その實質の進化は或る機會がそれを爲しとげる。社會即自覺、自覺、自覺、人はもつと相背き合つてもよからう。人はもつと孤獨を知る

必要がある。天災の下に於ては他人同志がいかに親類同志の如くであつたか。』と彼女は云つてゐます

書き出しはこんな文句から初まつてゐました。

『晩の七時、銀座バウリスタの大きな綠色の卓子には「陽氣な市民」の譜が載つつかつた。それの發する暗示につれて林原彦九郎が來た。二川政太九郎が來た。詩人の富彌十一が來た。小説家の古木六郎が來た。此の起承轉結に等しい脚韻ある一個の詩形は突然デスクを引つり返へしてピヤノにする等の趣味を主体として繫がつてゐた。』

彼女は彼女一流の奔放な想像で『それは君の立場としてはさうだらう。僕としては恁うだ。』と云ふ不徹底な水掛論、そして現代人の思想の究極であるものを曝露せしめました。それは奥深く複雜でした。私達は色々な戀、女性、生活を發見しました。

『わたし達は世の中を馬鹿にする爲めに生れてきてゐる。』と云ふ絶世の美人、『それは單なる空想では無い。現代の善人は人の爲めに働らくことのいかに立派な行であるかよといふ敎へを受けて、其の敎へ通りにしてゐる。模倣はいと容易く、また決して突飛な行爲ではない。』といふ信念に依つて、西歐の或る素敵に面白い小説を實地に行ひ、それを見るにいと容易に成功せしめる美貌の能なし男がある その裏面には醜婦が居つて、汎ゆる生存權を迫害され、その上句何の苦も無く殺されて仕舞ふ。それは一貧乏人が或夜飢死をしたのと同樣、何の注目にも値するものではない。

『陰氣な晩、陰氣な暗い空からは、こまかな霧のやうな雨が降つてきた。その一粒でもが人の肌にかゝつたが最後、人は或るべた〳〵した感覺から催ほす、忌まはしい精神的暗黒に陥ることであらう。』

「不潔に醉ふたとき、人は酒のみが酒精分をもつてゐるものでは無いといふ反證を握ることが出來る

見れば見るほど骨と皮ばかりの人であつた。赤茶けた髮の下に、ひよろりとした蒼い首があつた。彼はむつとした。恐ろしいはげしい慾望が一瞬間彼を昏倒させた。女の首は苦もなく皺がれた。口はあんぐりと開いて舌がぺろりと出た。からだは長くなつてぴく/\した。』

それはかへつて「惡の美」の謳歌にこそなれ、何等の義憤、何等の同情をさへも喚び起す種類のものでは無い。それは女の仲間、同じ血の通つてゐる女の同志しか知ることの出來ぬ悲慘である。

私達はお梅さんのそれが、どうかして發表されればよいと熱心に祈りました。その日は晝過ぎまで私達は話しました。そしてその晩お松さんの身の上に非常な不幸が惹起しようなどとは、無論夢にも知りませんでした。その事はいづれお松さんが委しく書くことでせう。お松さんは例ものやうに慈鳥を呼び集めました。お松さんが暗い壁の中に入つたのは、もう日も沈んでしまつて餘程の時がたつてからの事でした。そこには驚くべき事件が出來してゐました。そこにはかのお梅さんの小說の中の人のやうに、何の苦もなく絞め殺されてゐる母親の死骸がありました。それは隣家(となり)の小父さんがしたのでした。父親は土間の隅で棺桶の細工をしました。小父さんは酷くぶり/\して死骸のわきに立ちはだかつて、お松さんを叱り飛ばしました。お松さんは父親の手から鋸をもぎとつて、小父さんに身構へました。翌日小父さんは引つ立てられました。それは今から十日前のことなのです。

そして十日後の今朝、私達は私達二人の片田舍の少女の意思を、祖國に示さうといふ誓ひをしたのでした。お松さんは默つて笑ひました。そして金色(きんいろ)の霧の方へ駈け下りて行きました。

『ワイの流れよ。林間の逍遙子よ。』此の感情は強くて、私の胸は飛び立つほどでした。

【寄贈書籍】

後日、ゆつくりと批評したいと思ふ

女性の創造……室伏高信著

文明の沒落

土に還る（仝前）

（東京府下入新井町不入斗四七一〇〇社）

産兒調節の理論と實際……安部磯雄 馬島僴 共著

（小石川區小日向臺町二ノ一九 文化學會出版部）

武藏野……中西悟堂著

（小石川區白山御殿町卅二 抒情詩社）

高原を行く……竹村浩著（仝前）

女工哀史……細井和喜藏著

（芝區愛宕下町一ノ一 改造社）

私の教育記錄……池田小ぎく著

大阪市上本町一ノ一三・東京市神田區表神保町二 東洋圖書株式會社

大阪、東京朝日新聞が掲載した池田小ぎくさんの『歸る日』は、女流作家さして全く新しい境地を開いたといふので非常な評判になつてゐます。

本書は、女敎員としての池田さんの感想集です。

△編輯室にて▽

本月號もあわたゞしい内にソウコウとして編輯を終へて、お恥しい点だらけです。九月號からは、ぐつと内容を一變して、新しい趣向でやつてゆく豫定を立てゝゐますから、乞ふ、括目してお待ち！と云ひたい處です。印刷やの事情で發行日もずつとおくれすぎてゐましたが、これからは絶對にさういふ事はない筈です

○

職業婦人問題についての、世間のカラ太鼓は大分鳴りをしづめたやうです。これからほんものゝ職業婦人問題が、ほんとうの職業婦人自身の手に依つて提出されなければならないのです。

汗を流して思ひ切り働いて、秋來ると同時に、一つ新しい元氣で活動に入りたいものです。（わかぐさ）

前納誌代

一部 二十五錢 郵税五厘
半年分（郵税共）一圓四十錢
一年分（郵税共）二圓八十錢

送金法

誌代は必ず前金の事
送金は振替で願ひます
誌代の受取證は別に出しません。雜誌發送を以てこれに代へます

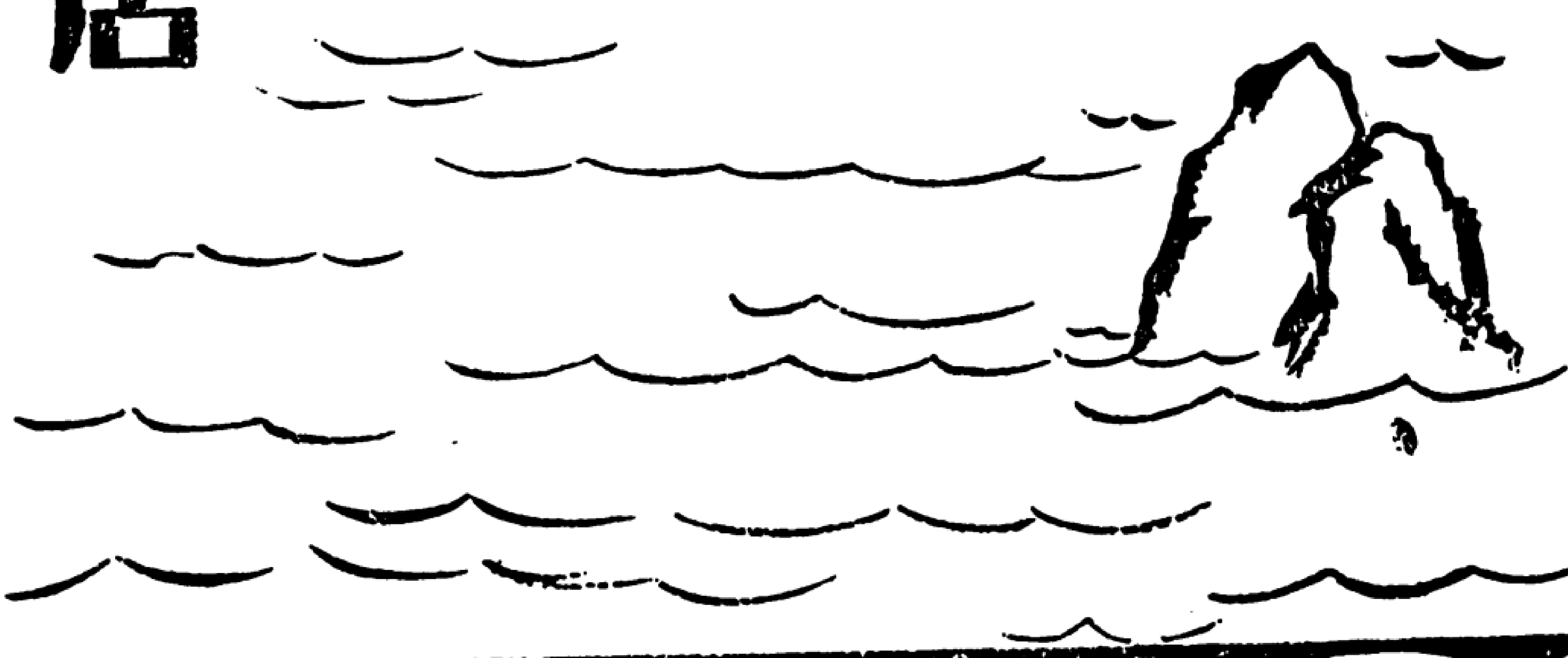
大正十四年八月十日印刷納本
大正十四年八月十二日發行

發行編輯兼印刷人 東京市外巣鴨町一〇一九 奥むめお

印刷所 東京市外西巣鴨町六六〇 香柏社印刷所 電話小石川五一八四番

發行所 東京市外巣鴨町一〇一九 職業婦人社 振替東京六四一六〇番









白木屋呉服店の抱負

當白木屋呉服店は日本橋に寛文二年の開業以來實に二百六十有餘年の歴史を持つて居りまして我が國に於て稀に見る老舗の一つで御座ゐます。

かく連綿として今日の盛運を見るに至りました事は一に大方各位の傳統的の御引立に依るものでこれが報恩の一端として代々の當主はいろんな奉仕的な事を致しました事が數々云ひ傳へられて居ります。

即ち今を距る事約二百年前享保年間に日本橋の附近に飲み水のよいのがなくて近所の人々が困つて居たので當時の店主大村彦太郎は約一年有餘の時日と幾多の財力とを投じて井戸を掘らせました、處が不思議にも地中から黄金の觀音の尊像が現はれ玉ひつゞいて名水が湧き出でたと傳へられて居ります。

此の白木名水は附近の住民を喜ばせた事は勿論でありましたが爾來毎年幕府に朝鮮の使節が來朝される毎にこれでお茶を差しあげる事が行事となつて居たさうで白木觀音と共に江戸名物の一つとして現在までも尙喧傳されて居ります。その外に獨得の染め味を見せてゐる山道手拭を魚河岸の方々のために特に朝早く賣り出したり又或る時は困窮な方々のために施米をなした事等が記錄に殘つて居ります。

當大阪支店は堺筋に開店以來僅に三年にすぎないので特記すべき報恩的の事實がないのが甚だ遺憾でありますが初代店主の「商は高利をとらず正直に、よきものをうれ末は繁昌」と云ふ訓歌を奉じて社會の進運に副ふた奉仕的な事業を行ひたい抱負を持つて居ります。

以上

安く賣る店
買ひよき店

白木屋呉服店

大阪 堺筋

大正十三年十一月二十二日第三種郵便物認可
大正十四年八月十日印刷納本
大正十四年八月十三日發行（毎月一回一日發行）

婦人と勞働 第三卷 第七號

【定價金二十五錢】